不定期刊行　　第637号　2018.02.12

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者　大西　浩

滋賀県の状況　（北村仁司先生より）

滋賀県、北村です。ご無沙汰しています。

さて滋賀県の冬山についてです。雪崩事故直後、教育長がゼロベースで見直すという記者発表があり、どうなることかと思っていました。これまで、県教委と３回の会議（県教委、高体連登山専門部[部長、専門委員長]、滋賀岳連会長）がおこなわれてきました。そのなかで、山域は県内に限りますが、おおむねこれまでのような講習会や高校単独の山行を実施できるようになりました。

雪崩事故の報告書や、長野県の指針が大変参考になりました。ありがとうございます。冬山に登るには事前の審査会の承認が必要です。また部員や顧問はビーコンなどの発信装置が必要とされました。ビーコンは高額なので、ヒトココでも可になっています。また引率者には、公認指導者が１人は必要です。例年、一泊二日で冬季技術講習会を行ってきましたが、今回は日帰り講習会をマキノで２月10日に行う予定です。

また顧問の技術力向上にも言及されているので、先日の土曜日に、マキノで顧問のみでコース状況を調査し、講習会のリハーサルをする顧問技術講習会を実施しました。教育委員会からの文書を添付（下記編集子注参照）します。ほとんど長野県の指針をパクっています。

冬山の基準など、曖昧さも残っていますが、とりあえず全面禁止ではないのでほっとしています。他県の状況なども、またお知らせ下さい。

（編集子注）北村さんからは、上記のメールのほか、滋賀県教育委員会が１月16日に発した「高校生の冬山登山計画要領」を送ってもらった。高校生が例外的に冬山登山を行う場合は、この要領にしたがうこととしている。北村さんが言及されている通り、この「要領」はほぼ長野の指針をなぞった内容になっている。これが一つのスタンダードとなっていくこととしたら、栃木の事故検証委員として、また長野の指針作りに携わったものとして望外の喜びである。これらの指針を所望の方がいらっしゃれば、お送りしますので、ご一報ください。

高雪研ＩＮ新潟

新潟高体連登山専門部の基本技術講習会は２月３日から５日に行われた。この講習会の中に「高雪研」を組み込んでもらった。初日の講習は、小生と上石勲さん（防災科学技術研究所雪氷防災研究センター　センター長）が担当した。この講習会には高校生も参加する。初日は金曜日なのになぜ？このあたりを専門委員長の中村さんにお聞きすると、従来から高体連の講習会ということで、生徒は公欠での参加が認められているとのこと。すばらしい！と思った。先生方はもちろんのこと、生徒諸君も真剣に話を聞いてくれた。高雪研は顧問だけの場合と、生徒も一緒の場合とがあるが、基本的な枠組みは変えていない。私は、自分の話を終えた後、その足で秋田へ向かったので、その後のプログラムに参加することはできなかったが、翌日は校庭や体育館を使ってビーコン捜索や読図練習などが行われた。

ただ新潟県では、現在冬山登山について県が厳しい方針を示しているという悩ましい問題がある。素晴らしいフィールドをもっている雪国で、その素晴らしさを体験したい高校生たちにその素晴らしさを教えること、またその素晴らしさの裏に危険がひそんでもいることをきちんと教えることを通してこそ安全教育がなされる。このことが絶えてしまうことのないように望む。

低気圧性降雪による表層雪崩危険度予測情報試験運用

今回のかわらばんには、かわらばんのほかに二つの添付ファイルを添えた。それについて説明したい。

国立研究開発法人防災科学技術研究所雪氷防災研究センター/気象災害軽減イノベーションセンターが、表記情報公開の試験運用をはじめた。この試験運用は、低気圧性降雪による表層雪崩危険度予測情報を試験的にホームページ上で提供し、閲覧者からのフィードバックを基に予測手法と情報の評価および改善等を行うことを目的としたものだ。

近年、南岸低気圧の通過による降雪を原因とする雪崩が頻発していることが言われるようになった。実際、那須の雪崩事故の原因になった雪崩もこの「低気圧性降雪による表層雪崩」であったとされている。低気圧による降雪によって生じる表層雪崩には次のＡ、Ｂ2 つのパターンがあり、本試験運用では、パターンＡとして「低気圧進行方向前面の層状雲から降った雪で弱層が形成され、さらに同じ低気圧から降った雪（サラサラとしてグラニュー糖のように崩れやすいことが多い）が上載積雪となり表層雪崩が生じる場合」とパターンＢ「低気圧進行方向前面の層状雲から降った雪で弱層が形成され、低気圧が通過した後の冬型の気圧配置による対流雲からの降雪や、季節風が強まることによる吹きだまりが上載積雪となって表層雪崩が生じる場合」のうち、パターンＡを対象として雪崩危険度を算定しているということだ。

この試験運用の中心メンバーは「高雪研」の活動を一緒に行っている同研究所の中村一樹さんらである。もし、この情報の閲覧をご希望の場合、添付ファイルをお読みいただき、そこにある申し込み書にご記入の上、cc の中村さんと渡辺さん宛にお送り下さい。そうすると、受付後、ＵＲＬ、ＩＤ、パスワードが返信され、この試験運用で提供されている雪崩の予測情報を閲覧できるようになる。その後は、できる範囲でかまわないということだが、閲覧者自身も情報を提供することで、予測の精度も増し、それ自身がフィードバックされる。もし興味がおありでしたら、登録の上、ご協力ください。

編集子のひとりごと

12 月 1 日付けの冬山に関するスポーツ庁の通知をめぐって、都道府県によって、全国各県の方針がまちまちだという印象を受ける。僕自身この通知を受け取ったあと、公式の場面で 2 回スポーツ庁の担当の方とお会いする機会があったが、そのときのお話では、「今回の通知は従来の方針をかえたものではない」ということであった。つまり、冬山の原則禁止は今まで通り、ただし、安全に行うための策を講じて例外的に冬山に入山することを認めているというものだ。長野県では、昨日、今日と大町岳陽高校は、鹿島槍スキー場上部の黒沢尾根で雪山合宿を行うことができた。連休中、白馬高校も上高地へ入山、上田高校は車山で冬山登山をするということで審査会を通っている。スポーツ庁の通知、県の指針に則りながら、冬山を行うことで、安全教育を推進したい。（大西記）